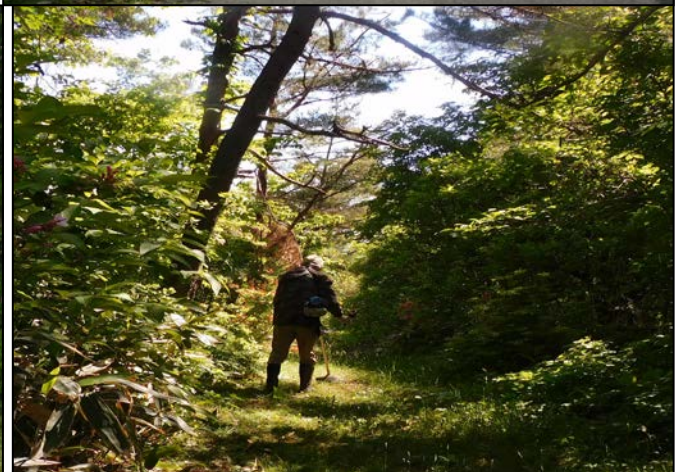


種山ヶ原は今③⑦ イーハトーブ風景地を守る人々

3月の雪解けを待って、レンゲツツジの枝起こしでスタート。杭を立て保護する。

5月いよいよ草刈りが始まる。草花好きの人のために草花は極力刈らないようにするのだが…

市道には色々な花が咲きます。それだけに微妙。遊歩道は30分以上もかかるので、高齢者向きではないが、賢治の森は詩碑「牧歌」のある一つのアアシスでもあります。



東菊と春リンドウ

春蘭

辛夷の花

「賢治の森」 5月中頃から東菊と春リンドウが咲き始めます。花が咲き終わり、種が飛んだ頃に草刈りをします。物見山、星座の森、牧場が眺められます。15年前までは松林に覆われ、何も見えませんでした。眼下に胆沢平野が見えるようになりました。雲海もきれいで雲上人です。立石も風化で少しひくくなりました。左手には大森山。人首丸の墓碑があります。



物見山 見晴しはいいが、風の際は草刈り機を持ち上げられて危険。物見山は住田町の人達との共同で実施。野芝の残っている大切な所。東菊も増えてきている。



ここには何故かアヤメ、なでしこ、オミナエシ等が咲いているんです。



カキツバタ？



ナデシコ



オミナエシ



キキョウ



オニユリ

「石川啄木と縁のあった米里の人」②

菊池正助(通称ショースケパン)1883-1962

＜獣医師、パン普及者、著述家＞

森鷗外(医学博士・文学博士)から

自著「凍筆日記」に「序文」

「馬と主」に「序にかわる詩」を寄稿



明治31年 盛岡中学(現盛岡一高)入学

※石川啄木と同学年 二人とも中退

32年 盛岡農学校(現盛岡農業高校獣医学科)に入学。

※岩手で東北大演習があり臨時の従軍記者に依頼される

36年 卒業し、六原軍馬補給部に就職。

※新聞記者を目指し、仙台の東北新聞社の記者に

37年 日露戦争 ※軍医部長森鷗外と共に獣医として

満州を転戦し、森鷗外の愛馬の病気を治し信頼を得る。

＜中国で薬代わりに使う酵母菌に注目。研究し、脚気馬が治癒＞

明治40年 自著「馬と主」に「序にかわる詩」を。

明治43年 「軍馬の研究」刊行

大正1年 「凍筆日記」に序文を。

森鷗外の明治43年9月15日の日記

15日(木) 陰。菊池正助来訪す。凍筆日記の序書いて興ふ。田中館愛橋の洋行談聴く。

※田中館愛橋=二戸市出身 地球物理学者

7年 青島民生所家畜診療所に(中国山東省)

※隣人のドイツ人にパン作りを習う

9年 高等小学校読本に「軍馬の忠義」採用

＜学校等の講師 青島市議＞

昭和5年 帰国し、岩谷堂にパン屋を出店し、

パンの普及に努める

7年 本小路にドイツ様式洋館を建てる。 →

食改善の講演・講習会を県内各地で開催

12年 「二宮尊徳像」を人首小と岩谷堂小に寄贈

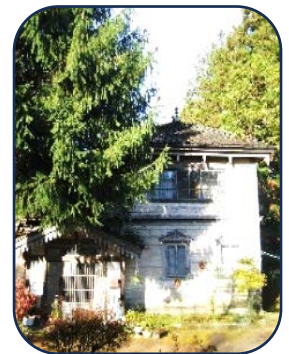
※現岩谷堂小学校に移転設置

28年～35年

「岩手民生新聞」に連載

※彼は10冊の本を出版

上記以外に「菊池式家庭パンと副食物」「伝染病読本」「軍馬軍犬軍鳩」「応用馬匹衛生学」等



※青島は中国・山東省